

# 関西部会だより

【年間主題】

『愛に根ざし、愛にしっかりと立つ』

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。」

エフェソの信徒への手紙 3章 16-17 節

《目 次》

頁

- \* 巻頭言 関西部会委員長 田村義明 牧師・・・・・・・・・・2-3
- \* 新年信徒大会「コロナ禍でも・・・」・・・・・・・・・・4-9
- \* 「タラントンのたとえ」黒田 秀雄兄・・・・・・・・・・10-11
- \* 新型コロナウイルス感染予防対策と教会の近況について(4)・・・・・・・・12-28
- \* 2021年度 第三回関西部会委員会議事録・・・・・・・・・・29-30
- \* 編集後記・・・・・・・・・・31



## 巻 頭 言

関西部会委員長 田村 義明  
(日本バプテスト大阪神愛教会牧師)

～デイサービスの運転手と介護の研修を受けて～



「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

使徒言行録 20 章 35 節

私は、この夏から冬にかけて、介護従事者の研修を受けました。「初任者研修」と「実務者研修」というものです。以前は、ヘルパー2級、ヘルパー1級と呼ばれていました。また、この2年間、ミード社会館のデイサービス送迎運転手を朝の1時間半ほどさせていただきました。ご利用者さんと接することができ、とても楽しかったということ、やりがいを感じたということ、素晴らしい介護士の方々が生き生きとされている姿をみたこともあり、勉強してみようと思いました。

介護の学びは、牧師という職務にもかなり関係のある学びと思いました。また、これから自分も高齢になるので、心の準備にもなります。日本全国、ある年齢になったら、みんなが受けたらいいと思いました。夏休みでしたから、高校生も受けていました。偉いものだと感心しました。「介護課程」と言われるグループでの検討会のような話し合いが一番大切な学びと思いました。利用者さんのたくさんの情報を集め、整理し、目標を立て、実施する計画書を作るのです。

初任者研修では、最後に試験があります。16日間の最後の日、朝から試験が始まる2時ぐらいまで、教科書を一通り先生が解説してくれて、大事なところに線を引かせるのです。先生は、言われました。「こんなのテストじゃないと思われる人は、絶対100点、とって下さい」。みんなを合格させるために一生懸命の先生がとても爽やかでした。実務者研修では、やはり最終日に実技のテストがあります。介護福祉士の国家試験の実技試験の代わりになります。ひたすら繰り返して、体で覚えます。不合格の人は、居残りになりますが、最後は、みんな合格させてくれます。介護の現場は、厳しそうですが、希望をもって受講生を現場に送り出そうとする先生方に出会いました。

み言葉は、エフェソという町にある教会の人たちとパウロがお別れをする場面で、パウロはこれからエルサレムに行つて、捕らえられて、もう皆さんとは会うことはないと話した、そして、抱き合つて泣いた、というところです。あなた方もちゃんと自分自身で働いて、弱いものを助けるようにと、またイエス様が言われた「受けるよりは与える方が幸いである」と言われた言葉を思い出すようにと、忘れないようにと言われたのでした。

弱いものを助けるということ、まさに介護の働きは弱い者、弱くされたものを助けるという働きです。弱いものを助けるようにとイエス様は言われました。イエス様の生前のご生涯はそうでした。神様が人となってこの地上に来て、されたことは弱い人たちを助けることでした。そして、最後はイエス様ご自身が最も弱い人となってくださって、十字架で死んで、そこで復活の命を教えてくれたことでした。弱い人たちを助けるお仕事は、イエス様がなさったことですから、これほど尊いお仕事はないと思ひました。

「受けるより与える方が幸いである」という言葉を忘れない。イエス様のお言葉ですから、いつも「思い出して」いたいと思ひます。弱い人を助けなさいと、しているつもりでも、実は、「自分が助けられていたんだ」と気づかされるものがたくさんあります。何のために生きるのか、そこで教えていただいています。愛する喜びを教えていただき、感謝され、ありがとうといわれ、笑顔をいただき、こんなに嬉しいことはないと思ひます。弱い人によって、実は、強い人が助けられているのです。自分が助けられているということを忘れてはならないと思ひました。



万博記念公園の梅林



## 2022 年関西部会 新年信徒大会

・ 日時：2022 年 1 月 10 日（月・祝）10:00～11:00

・ 場所：日本バプテスト大阪神愛教会

開会礼拝

司会：辰巳 裕兄、 奏楽：水上 遥姉

前奏

賛美歌 354（飼い主わが主よ）

主の祈り

聖書 使徒言行録 18：9～11

ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

説教 「コロナ禍でも・・・」 城陽バプテスト教会 高月 悠己子牧師

賛美歌 365（我が主イエスよ）

献金

頌栄 545（父御子御霊の）

祝祷

後奏

報告 部会、各教会よりお知らせなど

参加者

城陽：坂岡 弘子姉、谷口 和代姉、高月 悠己子師（部会委員）

我孫子：田口 望師

曾根：丸茂 誠師

池田・北豊中：松村 光司師、天野 寿人兄

山下：西川 富三兄（部会委員）

新生：田嶋 淳一兄（部会委員）

野並：伊藤 芳夫兄（部会委員）

奈良佐保：東間 克美師、辰巳 裕兄（部会委員）

神愛：入江 節子姉、山口 浩子姉、田村 義明師（部会委員）

寝屋川：工藤孝雄兄、加世田 正江姉

門 真：金井 望師、内山 一子姉

高槻：荒川 貞雄兄、阪本 満兄

西岡本：肥塚 千賀子姉、松田 恵美子姉

姫路恵：ウード・シュニーベルガー師、清田 佳代姉

鼓ヶ滝：川人 妙子師（部会委員）



## 説教 「コロナ禍でも・・・」

城陽バプテスト教会牧師 高月 悠己子

おはようございます。この2年間、わたしたちは、経験したことのない事態の中に放り込まれて、普段、普通にできていたことができなくなり、実生活の上でも、精神的な面においても、大変な時を過ごしてまいりました。毎年恒例であった関西部会新年信徒大会も、去年は中止となり、今年は2年ぶりの開催となりました。準備をしていた秋には、日本では急速に感染者が減って行き、何の問題もなく開催できそうだと、思ったのも束の間で、新しい変異株が現れるや、ヨーロッパなどでは大流行となり、わたしたちもハラハラドキドキでした。本当に何が起きるか分からない日々です。それでも、主イエス様の救いを信じるわたしたちは、主イエスの福音を宣べ伝える、という業を止めてしまってはならないのだ、と改めて思わせられています。

今朝取り上げたのは使徒言行録18章ですが、使徒言行録は別名聖霊行伝とも言われています。それはつまり、主イエス様が復活されて天に戻られた後、使徒たちによって主イエスの福音が、ユダヤ地方とそこに住むユダヤ人に対してだけではなく、もっと広く、アジアやヨーロッパ地方へ、異邦人へ、と範囲が広がって伝えられて行くのですが、それは使徒たちを用いて聖霊が働かれたからだ、と言えるからです。今朝取り上げた箇所において、後にこの人がいなければ今のキリスト教はなかったであろう、と言われるパウロが出てきますが、この時のパウロは心身共に弱り切っていました。

アテネでのちょっと悔しい、でも全くのゼロではなかった出来事の後、パウロはアテネを去ってコリントに行きました。このコリントという町は、商業や貿易の盛んな港町で、交通の集中する要所で、大変栄えた町ですが、同時にそのような町にはありがちなことですが、道徳的にも乱れた、猥雑な町でもありました。

そのコリントで、パウロはポントス州出身のユダヤ人夫婦、アキラとプリスキラに出会いました。彼らは、クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアからコリントに来た人たちで、どうやら主イエス様を信じる人たちのようです。見知らぬ外国の地で、同じ国の人と出会うことはやはりホッとすることのようで、しかもその人たちと意見が合うなら心強いものです。パウロは二人を訪ねて、アキラの仕事がテント造りであることを知りました。この箇所で初めて分かることではありますが、パウロもテント造りをしていたことがあるようで、同じ職業なので、パウロは彼らの家に住み込んで一緒に仕事をし、安息日には会堂で論じ、ユダヤ人やギリシャ人の説得に努

める、という生活を始めました。第 2 回目の伝道旅行に出かけてからもう長い時が経っていますから、生活費を工面する必要もあったのでしょう。

初めての土地で、気心の通じる夫妻と出会い、住まいの面でも生活の資金の面でも整えられて、どんなに心強かったことでしょうか。パウロが後にコリント教会にあてた手紙の中で「そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れにとりつかれ、ひどく不安でした。」と書いているように、この時のパウロは必ずしも何ものをも恐れなくて、ひたすら前進していく、超人的な強いパウロではなかったようですから、アキラとプリスキラとの出会いは本当に心強かったのです。このアキラとプリスキラは、後になっても、パウロの後方で、良き協力者の働きをしています。

さて、そうこうするうちに、やがてシラスとテモテがマケドニア州からやって来ました。彼らはフィリピの教会やマケドニアの諸教会からの献金を持ってやって来たものと思われます。そこで、パウロは御言葉を語ることに専念しました。パウロはコリントに住んでいるユダヤ人に対して、メシアはイエスであると力強く証ししました。しかし、ここでも反対に出会うのです。このユダヤ人たちは、直接パウロに暴力を振るったりするようなことはしませんでした。それでもパウロの言うことに反抗し、口汚くののしりました。それでパウロは自分の着ていた服の塵を振り払って言いました。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に振りかけられ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」今は暴力は振るわないけれど、やがて以前に居た、フィリピやテサロニケでのように、彼らが迫害して来るのではないか、という恐れがあったかもしれません。

パウロは異邦人伝道に力を注いだ人として知られていますが、でもそれは最初からそうだったわけではありません。最初はユダヤ人たちに、自分たちが何百年も待ち望んでいるメシアが、あの十字架で死なれたナザレの人イエスだったのだ、ということ伝えていたのですが、しかしユダヤ人たちはイエス様をメシアだと認めようとはせず、反対や迫害という態度を示したので、段々と異邦人伝道の方に重点を置くようになって行ったのです。

「今後、わたしは異邦人の方へ行く」と宣言したパウロは、ユダヤ人の会堂を出て、ギリシャ人で神を崇めていたティティオ・ユストという人の家に移りました。彼の家は会堂の隣にありました。その会堂の会堂長であったクリスポは、パウロの話しを聞いて、一家を上げて主を信じるようになりました。また、多くの人々がパウロの言葉を聞いて信じ、バプテスマを受けたのです。会堂に集っていたユダヤ人たちには反抗され、口ぎたなくののしられましたが、この町の異邦人たちが大勢救われたのです。

しかし、パウロの心は晴れやかではなかったようです。同胞のユダヤ人たちが受け入れてくれない、ということが、彼の心を暗くしていたようです。そんなある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われたのです。

恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。

主がこのように声をかけてくださる、ということは、とても有難くうれしいことですが、同時にそれはパウロがとても臆病になっていた、ということを表わしています。コリントの人々が、パウロの語る言葉を聞いて、イエス様を受け入れ信じたのに、どうしてパウロは臆病になっているのでしょうか。それは、彼が今までに経験してきたことと関係があります。彼はいつも初めはユダヤ人に語るのですが、ユダヤ人は受け入れません。でも、異邦人たちがパウロの言うことを信じて受け入れるようになります。そして、信じる異邦人の数が増えて行きます。すると信じなかったユダヤ人たちが迫害するようになり、パウロの命が狙われます。それで止むを得ずそこを逃げ出すこととなります。そんな経験が今までに何度も繰り返されたのです。命を狙われて逃げなくてはならない。それはとても大変なことです。パウロは第2回目の伝道旅行に出てから何度もそういう目に遭ってきたのです。このコリントの町でも、ユダヤ人たちはパウロに耳を貸さず、口汚くののしりました。「今後わたしは異邦人の方へ行く」と宣言して異邦人に伝えると、異邦人たちは続々と信じて受け入れます。そうすると、先日までは口でののしりだけだったユダヤ人たちが、今までと同じように、妬みに燃えて迫害してくるのではないか。パウロがそのように考えたとしてもおかしくはありませんし、誰もパウロのことを弱腰だなんて非難する資格はないでしょう。後にパウロが自分で言っているように、確かにこの時彼は「わたしは衰弱していて、恐れにとりつかれ、ひどく不安」だったのです。

だから、ただ一人、パウロに命じることのできる主が声をかけてくださったのです。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。」でも、このように命じられる主は、何の保証もなく命じておられるのではありません。「わたしがあなたと共にいる。」主が共にいてくださるのなら、何を恐れることがあるでしょう。わたしたちが恐れるのは、自分一人で事に当たろうとしているからです。主が共にいてくださるなら、主はすべての問題に対する回答を用意してくださっていますから、主にその回答を教えてください、必要ならば主ご自身が矢面に立って守ってくださるのです。しかも今回に関して言えば「あなたを襲って危害を加える者はない」と保証してくださっています。そして「この町には、わたしの民が大勢いる」のですから、パウロは語り続けなくてはなりません。わたしの民と言えども、彼らはまだ福音を聞いてはいないので、大勢の主の民がすべて、福音を聞くまで、パウロの役目はまだ終わらないのです。この励ましを受けたパウロはここに1年6ヶ月の間とどまって、人々に神の言葉を教えました。

伝道というものの不思議さ、危険性、素晴らしさ。を思わせられます。人間を通して伝道されるのだけれど、決して人間だけの業ではないし、また、人間が表

面に出てほめそやされることがあってはならないのだけれども、神はいつもは隠れておられ、いざという時には介入される。でもいつも共にいて守ってくださっている。そんなことを改めて教えられます。

コロナの騒ぎが始まって、最初の緊急事態宣言が出された頃、多くの教会が会堂に集まっての、今までの礼拝形式を守ることに困難を覚えました。ユーチューブやズームなどで礼拝をライブ配信する、という方法を見つけ出し、そちらに切り替えた所も多くありました。でも、そのような手段を取ることができない教会もありました。その時、わたしの思ったことは、何があっても会堂を閉じてはならない、ということでした。一旦会堂を閉じたなら、この騒ぎは1年や2年で終わることはないだろうから、そうすると再開することはとても難しくなる、と感じたからです。けれども、県境を越えて移動することは自粛するように、と言われている頃、教会の牧師たる者が毎週毎週県境を越えて移動しているのを見て、外部の人たちは何と思うだろうか、という嫌な思いがちらっと心によぎったのは事実です。もちろんそれはすぐに、これは不要不急の用事ではないし、車で、わたし一人だけで、どこにも寄り道をしないで移動するのだから、他の人に迷惑をかけるのではないのだから、気にするな、と開き直りましたが、サタンはしつこくて、「お前が礼拝を休まず教会を開け続けることは、不安を感じて休みたいと思っている人がいても、彼らは休むことができないのではないか。お前は皆に礼拝出席を強要しているのではないか。」などとささやきかけてくるのです。今まで覚えたことのない、精神的なしんどさでした。でも、今となっては、休まなくて良かった、と思っています。自分の教会がライブ配信になったので物足りなくて、という、他教団の方が礼拝に参加されるようになり、もう1年以上たちました。

主はどんな時にも、いつも励ましてくださいます。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。」と。そして「わたしがあなたと共にいる。」と請け合ってくださいています。困難な中であっても、主の福音を語り続けましょう、なぜなら、主の福音を必要とする人々が大勢いるからです。

## <部会、各教会からの報告等>

### 猪名川研修センター 荒川貞雄兄：

コロナ禍で1昨年は利用客が400名にまで減少し、どうなるかと思っていたら、昨年は700～800名と倍増しました。22年度はどんどん予約が入っており、V字回復するのではないかと思います。一つトピックスとして、風呂を沸かす給湯器を20数年使っていますが、昨年冬風呂を沸かすのに困ったことがあり、この13日に取り換える予定です。取り換えに30万円かかります。「好きやねん会」の方に会費を振り込んで頂きますようよろしくお願いします。

**田村 義明師：**

2月20日の交換講壇に13教会が参加される予定です。その後の交わりをするのが本来の主旨ですが、こういう状況なので、なかなかそういう時間が取れないと思います。また翌週には無牧師教会の相談会が開かれますが、初めての経験で、今日熊谷先生がお休みななのでどのような会になるか分かりませんが、またお知らせしたいと思います。

それから、今度の同盟総会で理事選挙が予定されており、各教会から理事長候補、教師理事候補、信徒理事候補がもしおられたら教会の方で推薦してくださいというお便りが間もなく行きますので、役員会で相談して頂き、各教会から候補者を送り出して頂ければと思います。

今年度関西西部会に来られた新しい先生方からご挨拶を頂きたいと思います。関西西部会を去られる先生からもお言葉を頂きたいと思います。

**金井 望師：**

2年間ほど西岡本教会の客員教師として3つの教会を回らせて頂きました。昨年4月に門真キリスト教会に牧師として奉仕させて頂いています。今後とも宜しく願います。

**ウード・シュニーベルガー師：**

10月31日に他の先生方のご出席の下で就任式を行って頂き、感謝します。金井先生と同じルーテル神学校を昨年卒業することができ、牧師になったことを光栄に思い、喜んでおります。今は小さな教会ですが、これから教会が大きくなるという夢を見ています。皆さん祈って下さい。

**田口 望師：**

1 昨年の夏頃に我孫子教会に転籍しました。前の教派の神学校を卒業していましたが、一身上の理由で前の教団をやめてから再献身の思いが与えられました。大矢先生とご相談したところ、バプテスト同盟の教師資格を得るよう言われました。去年10月に教師資格の認定をして頂き、11月に我孫子バプテスト教会の牧師に就任しました。暫くは右も左も分からず、人見知りをしてしまいましたが、交わって下さい、祈って下さい。このような機会に皆さんと顔を合わせる事ができて感謝です。

**東間 克美師：**

奈良佐保キリスト教会は昨年11月に創立100周年を迎え、11月14日に記念礼拝を捧げることができました。本日お集りの教会の方々にささやかな記念品を差し上げることができました。私自身は3期12年間奉仕した奈良佐保キリスト教会をこの3月に任期満了で退任します。4月からは生まれ故郷の横浜に戻り、日本バプテスト神学校で2年間お手伝いをさせて頂きます。これからも引き続き宜しく願います。

(各教会のその他出席者からの挨拶、報告は省略させて頂きます。)

## 「タラントンのたとえ」

日本バプテスト大阪神愛教会 黒田 秀雄兄



マタイによる福音書 25 章 14～30 節:「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、五タラントン預

かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラ



ントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『ご主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だを知っていたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。』

イエス様は多くのたとえ話として天の国、神の国の話をなさいました。神の国とは、国という場所や領域を考えますが、ギリシャ言語では「支配」という意味です。私達が思いつく天国＝パラダイスとは違ってきます。万物の造り主の神様が自らの責任で治め導く神の国を表しています。このたとえ話を理解するには「ものさし」が必要です。平等主義、民主主義という私達の「ものさし」を使うと納得しがたい所です。イエス様は「神の国」の性質を説明され、「神の主権」という「ものさし」を使われて話されました。

旅に出るこの人「神様」は僕「私達」とどうして五タラントン、二タラントン、一タラントンと額を違えたのでしょうか？—私の55年前の疑問です。

しかし最近気がつきました。二タラントンの人は、五タラントンより一タラントンに近いです。だから、二タラントンの人も一タラントンの人のように五タラントンの人を横目で見ながら不満を募らせそうなものです。しかしこの人は落胆もせず、二タラントンを五タラントンの人と同じように受け止め懸命に働きました。その結果、五タラントンの人と同じ言葉で褒められ、さらに多くの管理の責任を与えられました。しかし、一タラントンの人は預けられた金を隠す無駄な行いをし、取り上げられ、主人の叱責にあいました。五タラントンの人、二タラントンの人は「早速、出て行き、それで商売をして、」とあります。彼等は何を目的に働いたのでしょうか。儲けを懐に入れようというのではありません。2人とも儲けはそのまま主人に差し出しています。2人とも「ご覧ください。」という嬉しそうな声です。彼らが思っていた事は、主人を喜ばせる事でした。主人の答えは、「よくやった。」とあります。それに対して一タラントンの人は主人の本当の心を知りません。真剣に生かそうと働けば、たとえ儲けが二分の一タラントンにしかならなかったとしても、他の2人と同じ榮譽を与えられたでしょう。主人の叱責は自分の殻に閉じこもり主人の心を理解しない彼への深い憐れみが出る問いかけです。

私達には与えられた賜物の違いがあります。それは神様にとって私達の価値の違いではありません。賜物はどんなに小さくても、私がここに生きている事実は、神様にかけてがえのないものです。私達各々には命という最小最大の賜物を与えられています。この価値を本当に知っているのは、このたとえ話をして下さったイエス様です。イエス様はこの時私達の贖いの十字架への道を受け入れておられました。ご自分がそのために人と同じ姿で世に遣わされた神の独り子であると知っておられたのです。その十字架の死についてヨハネによる福音書3章16節「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」とあります。一タラントンしか与えられていなくても、その一タラントンに意味があります。それを生かす、歩む道があるはずです。大きな賜物の人と同じように小さな賜物の私にも、他に換えられない大切な使命があるはずです。パウロはローマの信徒への手紙12章6節「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っている。」と言いました。そして、コリントの信徒への手紙第1-6章20節「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」と勧めています。

自分の与えられた賜物を他者との比較によって測らずに、神様が預けて下さったかけがえのない宝として感謝して用い、神様から「よくやった」の声をかけられる日々を送り生きていきましょう。

<2月13日、寝屋川キリスト教会での礼拝メッセージ(要約)>

## 新型コロナウイルス感染予防対策と教会の近況について(その4)

関西部会加盟各教会からの報告 (順不同)



### 京都バプテスト教会

牧師 松岡 正樹

こちらの教会は、礼拝は対策をしながら継続して行っています。教会員、特に変わりなく過ごしています。



### 城陽バプテスト教会

牧師 高月 悠己子

城陽バプテスト教会では、2022年1月末まではいつもと変わりなく、元気に過ごしてきました。しかし、オミクロン株の感染拡大が京都府にも及び、いつ、誰が感染してもおかしくない、という状況の中で、遂に、いつもは熱など出したことがない、という同居の家族が1月29日の土曜日午後に高い熱を出し、もしや、ということで教会員とのお連れ合いが翌日30日の礼拝を自主的に休まれました。PCR検査もなかなかしてもらえず、発熱した人は2月1日には熱が下がっていましたが、予約していた検査を受け、2日の夜になって陽性との連絡が入り、ご夫妻は濃厚接触者ということになりました。その翌日、夫の方が熱はないものの喉が痛くなり、彼には基礎疾患があるため、土曜日に検査をしたところ、陽性。続いて妻の方にも同様の症状が出て来て8日に陽性であることが判明しました。お二人とも熱もなく、元気にはしておられましたが、結局外出禁止が3週間続いてしまいました。他の教会員には感染の様子はなかったのですが、ただでさえ人数の少ない礼拝が、とても寂しくなりました。

あと少しの辛抱だね、基本的な「手洗い・うがい・マスク」をしっかりしまししょうね、と言い合っている最中に、教会役員の谷口和代姉が、2月8日の早朝に、急性心筋梗塞で、自宅で亡くなっているのが発見され、2月11日に教会で告別式をしました。2月6日には礼拝の司会もされ、お元気だったのを見ていましたから、家族はもちろんのこと、わたしたちにも大変なショックです。教会役員3名の内1名は長期にわたる病欠欠席、そして今回1名を失い、実務を担うことができるのは、残る1名と牧師の2人だけとなり、年度末を控えて頭の中

が真っ白ですが、とにかく落ち着いて、主に助けていただきながら、やるべきことを一つ一つ成して行けるように、と祈るばかりです。

なお、最初のご夫妻はすっかり元気になって、2月20日の礼拝には出席され、元気な顔を見ることができて感謝でした。また、最初の日曜日に、もしや？と自主的に休まれたことも、とても良い判断だったと感謝しています。

そんなこんなで、確かに大変な時を過ごしていますが、その時々に応じて、主が支え最善をなしてくださっていることも覚えさせられて、感謝です。



牧師 林 宣雄

#### <新年信徒大会への報告>

近況報告をいたします。クリスマスの集会は下記のとおりです。

- ・ 教会クリスマス礼拝
  - ・ 日時：2021年12月19日（日）教会礼拝堂 参加 33名
  - ・ 各こども園職員クリスマス礼拝 (献金 254,200円)
  - ・ 日時：2021年12月21日（火）愛光みのり職員 20名
  - ・ 日時：2021年12月22日（水）愛光職員 10名
  - ・ 日時：2021年12月23日（木）愛光兜台こども園職員 9名
- 計 72名

(コロナ感染予防のため、分散方式で礼拝、参加者は自由参加)

- ・ 教会学校（小学生）こひつじ会（木津地区）教会礼拝堂 58名
  - ・ (小学生) こむぎクラブ（城山台地区）集会室 24名
- 計 82名

その他：林牧師11月下旬に体調を崩しましたが、現在は回復して元気です。

林牧師1月9日（誕生日）85歳です。

木津キリスト教会、宣教115年（林牧師は着任46年目）

以上、2022年1月4日

#### <上記新年信徒大会への報告以降の当教会の状況>

- ・ 聖日礼拝は、毎週の礼拝参加者は約10名前後です。
  - ・ 教会学校の礼拝は、コロナ感染予防により以下のとおりです。
- ① 木津地区（こひつじ会A）の定例礼拝は困難です。2021年度クリスマス礼

拝は参加者（小学生）82名です。（カラー写真参照）

② 城山台地区（こひつじ会 B）は、小学生の学童クラス（毎日集会）利用して、月例会を林牧師の聖書学習をしています。参加者は、主に高学年で約30名です。

- ・ 献金状況の報告 毎週、3万円～5万円の献金が献げられています。2021年度は、礼拝献金は120万円達成です。約束献金は60万円、自由献金は30万円、指定献金は40万円です。
- ・ 礼拝説教は、林牧師がローマの信徒への手紙 駒田兄弟が月例で1回、奈良佐保キリスト教会の信徒2名が隔月奉仕
- ・ KCC（京都地キリスト協議会）林牧師が常任委員です。

以上、2022年2月28日

クリスマス礼拝 2021年12月19日（日）



<大人 72名>



<大人 33名>

教会学校クリスマス礼拝 2021年12月11日（土） 82名



# 愛光兜台こども園

園長 藤田 実

1. 登園時
  - ・こどもは、健康チェック表にて、体調の確認（咳、発熱、喉の痛み、便のようす等）  
検温後受け入れする
  - ・保護者も検温する
  - ・訪問者、来客者については、問診表に沿って体調の確認と検温する
  
2. 保育室
  - ・部屋の換気を行い、CO2濃度のチェックを行う
  - ・玩具、遊具等の消毒を行う
  
3. こどもたちの生活の中で
  - (1) 食事
    - ・机と机の間を空け、クリアファイルにて仕切りをし、飛沫を防止する
    - ・大きな声を出さずに食べるようにする
    - ・職員は、こどもと一緒に食事を行わず、職員室にて食べる
    - ・うがい、歯磨きは控える
  - (2) 遊び
    - ・3歳児以上は基本的には、マスク着用する
    - ・手洗い時は、個人のハンカチを使用し、タオル掛けの使用は避ける
    - ・歌を歌う時は、少人数ずつ、広がり、密にならないようにして歌う
    - ・夏の期間のプール遊びは控え、少人数で水遊びを行う
  
4. 行事について
  - ・教育的な幼児クラスの行事のみ実施する。乳児クラスは、動画配信等で日常の様子を伝える
  - ・年齢ごとや、少人数ずつ行うなど、密集を避けるようにし、時間短縮など配慮する
  - ・参加者は、問診表にて、問診表に沿って体調の確認と検温をする。
  
5. 職員体制について
  - ・日々の職員配置、こどもたちの様子を写真に収めるなど、行動履歴を記録する

## 奈良佐保キリスト教会

牧師 東間 克美

新型コロナウイルス感染防止対策に関しては、以前から申し上げている通り、「新型コロナウイルス感染防止ガイドンス」に基づいて対応しておりますので、改めて申し上げることはありません。しかし、注意すべきことは「コロナ禍」にあつて、「コロナ慣れ」にならないことです。従いまして、主日礼拝や祈祷会の出席に関して、予め自宅での検温、来会時に於けるマスク着用、アルコール消毒、3密回避、礼拝堂入場者制限など、常に注意喚起をしております。

教会の歩みに於いては、昨年11月に創立100周年を祝い、溢れる感謝を主におささげしました。関西部会諸教会・伝道所のみなさまには記念品と、創立100周年記念誌「主の恵みに導かれて」をお届けさせていただきました。一方で2022年度は牧師の退任などを含めて一つの過渡期を迎えております。主が私どもの教会を憐れみ、すべての必要を満たし、最善をなしてくださるよう切に祈っております。どうぞ、この祈りに心を合わせていただければ幸いです。

## 寝屋川キリスト教会

(代) 工藤 孝雄

去る1月10日(月・祝)には、2年ぶりに開催された新年信徒大会に2名で参加させて頂きました。短い時間でしたが、久し振りにお会いした皆様、とてもお元気そうで楽しいひとときでした。

いつもお世話くださる神愛教会の皆様、関係者の皆様、有り難うございました。

寝屋川教会は、この2年間コロナ禍ではありましたが、礼拝等は少人数なので感染対策を行いつつ、平常通り守ることができました。感謝です。

皆様同様、コロナの早期終結を祈るばかりです。

さて、寝屋川教会では4年間、無牧師でありましたが、漸くこの4月より神学校卒業生の鈴木利子様を教師としてお迎えすることが決まりました。

鈴木師は牧会運営は初めての方です。関西部会の諸先生皆様のご指導を宜しくお願い致します。

これまで無牧師状態の寝屋川教会を説教等で御協力・御指導下さいました牧師の皆様、信徒伝道者の皆様に心より感謝申し上げます。

有り難うございました。

## 門真キリスト教会

牧師 金井 望

◆門真キリスト教会では今年度は、教会堂での主日礼拝を一度も休まずに続けています。勿論、手の消毒、マスク着用、三密（密閉・密集・密接）を避ける工夫をしつつです。まん延等防止重点措置や緊急事態宣言が出されている間は、礼拝時間を短縮しています。

◆お茶（特に紅茶）は10秒間で口内のウイルスを死滅させるということで、礼拝の前後に紅茶や緑茶を皆で飲用しています。また、教会の庭で採れたキンカン、ハッサク、レモンは風邪などの予防や治癒に効果的だということで、これらも皆でいただいております。

◆主日礼拝では待降節からルカによる福音書の連続講解説教を行っています。

◆ささやかですが、クリスマス礼拝の後に愛餐会を持ち、新年礼拝の後にぜんざいを皆でいただきました。

◆門真の教会堂にインターネットの光回線を導入しました。今後はインターネットを使った宣教にチャレンジします。

新しいメール・アドレス：[kadoma.church@kje.biglobe.ne.jp](mailto:kadoma.church@kje.biglobe.ne.jp)

◆金井望牧師は、聖書やキリスト教神学を教える金井塾を主宰しています。教会堂やオンラインの他、出張でも講義を行っています。本格的に聖書やキリスト教を学びたいという教会または個人の方がおられましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL：080-5598-5122      メール：[nozomu.kanai@gmail.com](mailto:nozomu.kanai@gmail.com)

## 高槻バプテスト教会

(荒川 貞雄兄)

前報で報告しましたように、高槻教会ではオゾン発生器を導入しております。オゾンはウイルスを不活性化することが出来るので、教会が一番安全な場所という認識で礼拝を続けています。

オゾンを会堂内に満たすため、換気をするのではなく窓を締め切る必要があります、寒い今の時期には有難いことです。

## 茨木恵伝道所

(吉永 清子姉)

12月12日に、久しぶりに聖餐式を持つことができました。  
ですが、1月には感染の拡大が見られたため、再び中止としました。

12月19日のクリスマス礼拝に、ムジカンパーニュをお迎えし、特別な賛美の時を持つことができました。

それ以外は、前回の報告から変わっていません。

## 日本バプテスト大阪神愛教会

牧師 田村 義明



週報には毎回、次の言葉が掲載されています。「ウイルス感染予防のため、自宅での検温、こまめな手の消毒、マスク着用、間隔を開けての着席など、お願いします。集会室にはモニターテレビが設置されていますので、集会室もお使い下さい。窓をできるだけ開けての換気にご協力ください。賛美の声など、できる限り小さめでお

願います。『ライン』での礼拝出席ができます。スマホをお持ちの方はお知らせ下さい。教会からの連絡にも使用させていただきます。教会内での飲食はお控え下さい。礼拝が終わりましたら、用事のない方は、早めのご帰宅をお願いします。教会内で感染を起こさないよう、お互いに注意しましょう。」



## 我孫子バプテスト教会

牧師 田口 望

我孫子バプテスト教会では昨年末に一時期感染予防対策を緩和しましたが、変異株の流行に伴い、講壇の亚克力パネルを高くして飛沫対策を強化するとともに、以下の文章を教会掲示板に掲げて感染防止対策を再度、周知徹底しています。

礼拝・集会時における新型コロナウイルス感染予防のお願い

1. 消毒液で手を消毒し、検温してから礼拝堂に入る。
2. マスクを着用する。
3. 風邪症状の他、体温 37.5 度以上の時はお休みする。
4. 讃美歌は 1 節のみ賛美する。
5. 礼拝堂では 2 か所以上の窓を開け換気する。  
(寒さ対策は、各自お願いします。)
6. できるだけ密接しないように着席する。

なかなか教会の礼拝中に写真を撮ることもないので、今年の 1 月 30 日に信徒の方が立証して下さっている間に撮影した写真と、教会の夜、ライトアップした写真を送らせていただきます。



## 曾根キリスト教会

牧師 丸茂 誠

主日礼拝は、礼拝堂で捧げつつ、同時にライブ配信も行っています。教会学校は、大阪府のまん延防止等重点措置の発出に伴い、1月30日から礼拝後の分級はお休みし、礼拝のみ行っています。教会とひかり保育園に関係する一人一人の体調が守られ、神様の導きのもとに歩むことができるよう、また様々な困難の中にある方々を覚えて、祈りを合わせて歩んでいます。



## 北豊中教会

牧師 松村 光司

2021年4月以降、牧師が池田バプテスト教会と兼任となり、午後3時からの礼拝を継続しています。12月19日のクリスマス礼拝はクリスマスコンサート礼拝として水上遥さんに演奏をオルガン演奏していただきました。コロナ禍なのでごくごく近所の方だけに案内をしましたが、いつも礼拝に来ている方のご家族や、近隣の方など20名ほどが集まりました。普段が7名程度の礼拝なので、賑やかで嬉しいときとなりました。神様の導きに感謝します。

その他、ミッションスクールの生徒さんが礼拝出席していますので、月一回は中学生会を行っています。このようなプログラムが出来たらいいなと思いつつ、具体的な方策がありませんでしたが、神様の不思議な働きで実現していることを感謝します。

年末の大掃除で会堂の窓枠の一部に水が入り傷んでいるのが見つかりました。また外壁にクラックが複数ありました。早めに対応をした方が良くということで、2月末から2週間の工期で、外壁と窓枠の修繕を行



っています。約 100 万円の修繕となりました。築 50 年ほどになる会堂ですが、大切に使っていきたいと思っています。

また 3 月には長く礼拝出席をされていた方の転入会式を予定があり、喜びのときを迎えています。地域の教会としてこれからも神様に用いていただけるようにと願っています。

## 池田バプテスト教会

牧師 松村 光司



昨年の秋はコロナが落ち着いておりましたので、いくつかのイベントがありました。10 月には教会で幼児祝福式を行い、教会メンバーのお子さんの成長をみんなで喜びました。また 11 月には教会メンバーの結婚式があり、教会員一同で喜びをともにいたしました。新しい会堂では初めての結婚式でした。多くの恵みを神様に感謝しています。

12 月は日曜日のクリスマス礼拝と 24 日のクリスマスイブキャンドルサービスを持ちました。特に、昨年は無牧とコロナ禍でキャンドルサービスは中止でしたので、一年ぶりに集会ができました。どれくらい集まるか分かりませんでした。近隣の方が看板やチラシを見て来てくださって 33 名で賑やかにイエス様の誕生をお祝いしました。

池田バプテスト教会は会堂建設から丸 5 年がたちます。多くの方の祈りと献金で建設した会堂ですが、2021 年度末で予定通り無事エクロフからの借入金を返済することができました。2022 年度以降は教会債の返済が始まります。神様の計画を信じて教会が満たされていることを感謝します。

コロナ禍ではいくつか課題もあります。愛餐会ができず交わりの時間が減ってしまったこと、教会学校の働きが十分に出来ていません。またしばらく礼拝でお会いしていない方もおられます。定期的にハガキや週報をお送りして、繋がりを大切にしています。共に祈り合いながら、感謝して礼拝を捧げていきたいと思っています。



## 山下バプテスト教会

牧師 藤井 勇次

(日曜礼拝)

現在の山下バプテスト教会のコロナ禍の現況は関西部会報前期号に報告した内容と殆ど変わっていません。昨年9月に礼拝出席者のお一人が新型コロナウイルス陽性判定となったため9月12日の礼拝はお休みし、当日牧師夫妻二人だけで礼拝をお献げしてネット礼拝配信とした後は、休むことなく同じように礼拝をおささげしています。



ただ、その時の感染経緯から礼拝出席二週間以内に37.5度以上の発熱が2日間以上続いている方、解熱剤を飲み続けている方、強いだるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)や新型コロナウイルス感染症患者の方々との濃厚接触者に特定された方、またはその可能性がある方(同居家族がPCR検査中等)には礼拝出席の自粛を考えて頂くようお願いしています。(医師診断で別病気と判明した方は除くとしています)。

また、マスク着用はウイルス等の病原体の飛散を防ぐ効果が高いとされてい



ますので、礼拝中のマスク着用をお勧め、礼拝堂の3台の換気扇は常時動かし、窓を開け、扇風機5台を動かして礼拝中の換気に努めています。

毎週日曜日の礼拝録音をパソコンやスマートフォンによって聞けるようにしていますし、毎週の週報も同様にパソコンや

スマートフォンで毎週見れるようにしています。また、毎週の礼拝説教の解説と黙想をまとめた「自宅日曜礼拝導き書」を作成し教会員、客員、求道者の皆様にお届けしています。

教会学校礼拝は、昨年4月より兵庫県に緊急事態宣言が出された15主日だけお休みしました。今は、分級はお休みして、礼拝だけ短縮した形で行っています。

(付属園)

2月22日(火)に年少クラスの女の子1名が発熱、24日(木)新型コロナウイルス感染陽性が判明したと園に連絡がありました。川西市の担当職員に聞きながら対応し、年少クラスのみ24日(木)～3月1日(火)までの5日間を臨時休園としました。年少の職員2名と補助者1名は簡易検査で陰性と判明し、そのまま勤務しています。他の職員の簡易検査はしていません。全て川西市の指

導に従ったものであるとのことです（村田園長より）。

（平日集会及び奉仕活動）

日曜礼拝以外の平日の集会及び家庭集会やコンサート、講演会、聖書とピザのキャンプ場の集い、ファミリー礼拝の全ての活動を休止しています。また礼拝司会や教会掃除等の全ての教会員の奉仕活動も原則全てお休みとしています（一部有志で行っているものもあります）。昨年9月から、2022年4月からは通常礼拝及び平日集会、奉仕等に戻れるようにしたいと準備していましたが、オミクロン株の急速な感染拡大により、今年1月の執事会で4月に再度判断することにしました。従って、感染が収束していったとしても、通常活動に戻れるのは5月以降となる見通しです。

（教会創立70周年）

また、2023年10月に教会創立70周年を迎えますので、記念誌作成等の記念行事の準備を始めているところです。

最後になりましたが、関西部会の皆様の宣教のお働きが守られ祝されますように、皆様のご健康の守りと共にお祈り申し上げます。



牧師 川人 妙子

「コロナ禍の礼拝」

主の御名を讃美します。

コロナ禍の緊張を抱えつつも、いつの間にか、マスクを通しての牧師のメッセージにも、慣れてきています。一体いつまで続くのか分かりませんが、今日の礼拝も、いつもと変わらず、主イエス・キリストのお守りのうちに、教会員一同、無事に預かり、家路につけたことは、何にも代えることのできない神のお恵みであり、測り知れない感謝でいっぱいです。

教会は、消毒液ポンプ、換気のフル回転、全開の窓などが当たり前の様子の現在ですが、極寒の1月～2月は、少々身に応えているようです。しかし、信徒も牧師も、怯むことなく、防寒着揃えのいでたちで、礼拝を捧げています。

ウイルス飛沫拡散防止のためには、声を出さない、沈黙が良いということなので、挨拶、讃美、など発声することは、中止にして久しく寂しさを感じますが、「まあ、もう一息ではないか」と希望をもって、今、この時を教会員皆で、互いに忍耐しています。でも無事に礼拝を捧げ続けられていることは、いかなるものにも比べられない神様のお恵みです。7日、7日の旅路を、教会員一同うち揃って、礼拝から礼拝へと、永遠に続けさせていただけますようにと祈りつつ。これからの全てのことをも、主の御手にお委ねして従い歩んでいきます。感謝。

## 西岡本キリスト教会

### 「持続可能な教会形成」

牧師 藤岡 荘一

この二年、幾度となく襲ってくるコロナの大波から守られ、主の導きを受けて何とかここまで辿り着くことができたことに心から感謝します。教会では引き続きガイドラインに従い、緊急事態宣言時には会堂礼拝を休止するものの、通常は会堂と家庭礼拝を併用し、家庭礼拝を継続される方には週報・メッセージ原稿・礼拝録音などの配達や配信を続け、聖餐式は4月からの再開を予定しています。

またかねてから要望のあった東京の遠方会員夫妻と無料のZoomで会堂と自宅を結び、11月から大型のモニターテレビを通してオンラインで礼拝出席ができるようになりました。音声もリアルタイムの双方向で交わせることから、今後は複数のログイン可能なZoomを有料契約にして、祈祷会や各集会なども積極的に結ぶことができると考えています。というのもこの二年間、水曜午前の祈祷会はほぼ休まず続け、出席者は毎回5～7名ですが、そこでみ言葉を学び、毎週与えられるとりなしの課題をたゆまず祈り続けることが、いかに教会の営みを支えているかを再確認しています。

そんな中でこの二年、二人のバプテスマが与えられ、他にも熱心に礼拝出席されている求道者、また積極的に奉仕してくれるようになった客員会員にも恵まれました。わたしたちの教会は歴史的にみると開拓伝道などのために牧師を派遣し、また教会員を東京などに送り出すことの多い歩みをしてきましたが、この度、平バプテスト教会の姉妹がこちらのご実家に戻られたのを機に転入を希望され、大変励まされる思いを与えられました。これは同盟が結ばれていることの何よりの証しでしょう。

思えばかつて、ここは地域や子どもへの伝道集会に大変にぎやかで忙しい教会でしたが、この二年間の経験を通して、教会が新しいかたちの大家族を回復することの大切さを知らされました。それはご長寿の第一世代を助けながら第二世代が礼拝と祈りを共にし、そしてそこが子育てや教育に忙しい第三世代の拠り所となる、そんな「神さまの家族」が信仰によってしっかりと結ばれていくのです。それは決して血縁で結ばれた世代間の営みではなく、たとえ独身であっても夫婦であっても、主に在って教会の家族となったひとり一人が、天の故郷を仰ぎながら旅を続けているかのようです。

世はまさにSDGs時代の到来、しかしそこで教会は、変わることなく「持続可能」な福音宣教を託されているのでしょうか。これからも関西部会の皆さまと共に歩めることに心から感謝します。

(撮影時のみマスクを外して記念写真)



10月3日／妹尾由美姉の召天記念日・ご遺族と共に 12月26日／昨年最終主日礼拝

## 日本バプテスト 日ノ本教会

牧師 井上 正之

約2年前に発生した新型コロナウイルス感染により、教会の大半の活動は今なお中止していますが、感謝すべきことに主日礼拝は一度も中止することなく継続できています。感染予防対策には随分気を使いますが、教会の皆さんの理解と協力を頂いて今日までやってこられました。ただ一緒に食事したりなどして、同じ空間で共に時間を過ごすことが出来ない状況が続いているのは、とても残念に思います。コロナ禍という制限がある中で、信徒の交わりを豊かにし、また伝道が進められるように祈り求めながら試行錯誤を重ねている状況です。

やっと収束に向かうかと思われた矢先に、オミクロン株による急速な感染拡大が始まり、今回はかなり警戒しております。長引くコロナ禍で生活に窮しておられる方が増加していることを憂慮しております。祈りと捧げもので少しでも力になればと願っています。

皆様の上に主の恵みと平安がありますようにお祈りいたします。

## 二見キリスト教会

(代) ト部 章

コロナ禍の中、毎週の礼拝はラインでしています。月一回の会堂礼拝を目指しておりますが、なかなか実行出来ません。

## 姫路恵教会

牧師 ウード・シュニーベルガー

姫路恵教会は 2021 年 10 月 31 日宗教改革記念日と共に当教会の創立記念日を覚えて、特別な喜びが与えられました。長年無牧の状況であった私たちは、信者から献身され神戸ルーテル神学校を卒業されたウード・シュニーベルガー先生を姫路恵教会の牧師としてお迎



えすることができました。就任式礼拝はコロナ禍のため対策を整え少人数で行いましたが、ご出席いただいた同盟の関西部会と伝道者養成部、神戸ルーテル神学校のそれぞれ代表なる先生方のご奉仕によって、感動溢れる記念すべき就任式を終えることができました。またその日には、無牧の間、教会の歩みを支え、助け、最後の代務者を担ってくださった井上正之牧師（日ノ本教会）にささやかな記念品をお贈りすることができ、教会員一同感謝いたしました。お世話になった先生方に心から御礼を申し上げます。有り難うございました。牧師就任直後から教会は神秘に満ちています。初めての方々が次々と主日礼拝に来られていて、中でも、海外から帰国された医師ご夫婦と小さな三姉妹がご家族で毎週礼拝に出席されることになり、こどものコーナーを設けて礼拝は賑やかになりました。それによって、クリスマス・イーヴには、7年ぶりに教会伝統の手づくりの聖誕人形による子ども向けのネイティヴィティー劇を行いました。教会のご近所さんで未信者の方々がヘルプしてくださり、コロナ対策に配慮して少人数ながらも、こどもの笑顔で満たされたクリスマスになりました。今はオミクロン株が収まるまで、医療従事者の外出自粛でお休みをされていますが、また礼拝にファミリーで出席されることをお待ちしております。他の教団から来られている姉妹も、コロナの期間中2年間礼拝に通い、恵教会に転会したいと希望され、2022年

のイースター季節には、神の祝福によって恵教会に新会員が与えられます。神が教会に新しい風を送り込んでくださり、長年人数的に変化がなかった状況が動き出しました。春の新芽とつぼみがほころんで教会も喜んでおります。ただ新しい方々が来られても、コロナ禍で教会は礼拝後のお茶会や食事会ができず寂しいですが、一日も早く、バプテスト教会が大切にしている交わりができることを願っています。2022年の予定は、コロナ禍の状況を鑑みて、シュニーベルガー牧師の教会モットーである「音楽と祈りの教会」に基づいて、少しずつ小さな教会音楽の演奏会や音楽礼拝、祈りとリタージ・音楽がつながる集会を、地域の方々へ奉仕するために神にささげたいと準備しております。みなさま、どうぞ姫路恵教会のグロース (growth) を覚えてお祈りでお支えください。



2021年10月31日 就任式

## 大阪新生教会

牧師 熊谷 稔

以前と変わらず、Web 中継をしながら毎週の礼拝を続けています。

(田嶋淳一兄の新年信徒大会での報告)

コロナ禍でも毎週礼拝できる恵みを感謝しています。実際にコロナ禍前よりも今の方が、Web の人を含めると礼拝人数は増えています。教会としてはコロナ禍で色んなことがありましたが、それをプラスに持っていき、これからも宣教活動に力を入れてやっていきたいと思えます。

## 野並キリスト教会

(代) 白井 嘉男

- ① 2年目のコロナ禍の中で主日礼拝は休まず捧げられました。出席者 10 名～13 名で離れて座り、時間短縮に努めました。
- ② 施設や入院中の方々に面会できず、祈るばかりです。
- ③ 4 月より田村義明牧師を専任牧師としてお迎えすることになりました。教会の 10 余年の祈りが聴き届けられたことに、教会員一同感謝と喜びで一杯です。牧師館の改修後、皆で大掃除や片付け等々を張り切って行っています。JBU の祈りで中部地区開拓伝道の回復と継続のため、主が選び、遣わして下さる恵み、野並キリスト教会の前進と成長のため、今後とも JBU の皆様の祈りを心よりお願い致します。



万博記念公園の梅林

## 2021 年度 第三回関西西部会委員会議事録

日時：2021年11月14日（日）15時30分～17時30分  
場所：大阪神愛教会・リモート（Zoom）併用  
対面出席：伊藤芳夫、高月悠己子、田嶋淳一（会計）、田村義明（委員長）、  
西川富三、藤岡荘一（書記）  
リモート出席：川人妙子、熊谷稔、辰巳裕  
開会：委員長／聖書 コロサイ3：12～17、奨励「キリストの平和」、祈祷

### I. 報告

- ① 前回議事録承認⇒全会一致で承認
- ② 同盟・部会／同盟奉仕者（部会は対象外）に適用されるハラスメント防止規定の運用開始
- ・ 姫路恵教会ウード・シュニーベルガー師と我孫子バプテスト教会田口望師の就任式(10/31)報告
- ・ 奈良佐保キリスト教会創立100周年記念礼拝(11/14)報告※理事長・総主事・部会長が来賓出席
- ③ 猪名川研修センター／コロナ危機で利用者減は続くが、日帰り利用が増えつつある。
- ④ 神学校関西教室／10/9より「神学概論」受講開始(信徒伝道者コース4名、聴講5名)
- ⑤ 教師会／9/28内海関西合同教師会(Zoom)、10/11～12三バプテスト合同牧師主事研修会(Zoom)
- ⑥ 問安・無牧師教会の現況／京都教会への問安は先方の意向もあり中止の方向
- ⑦ 会計報告／特に大きな報告事項なし

### II. 議事.

1. 部会報前期号の発行報告と今後の予定について
  - ・ 部会教会伝道所、他各部会長に発送済み、同盟HPでも閲覧可(各委員にも配布)
  - ・ 後期号3月発行予定、新年信徒大会メッセージ・各教会伝道所からの近況報告、証しについて(前期は山下教会より)はできるだけ部会・同盟内の信徒から募集する。
2. 新年信徒大会について
  - ・ 担当委員会での話し合いを受けて、1月10日(月祝)10～11時、大阪神愛教会にて各教会伝道所より二名以内の出席(部会委員は除く)による新年礼拝と報告会とする。
  - ・ 開催日に部会内の行政地域に緊急事態宣言等(まん延防止等も含む)が出された場合はzoom開催に変更、それに備えて招待IDは総主事を通して用意してもらっている。

- ・礼拝説教は高月悠己子師、他当日の奉仕者は担当委員で打ち合わせる。
  - ・ポスターと開催案内(申し込み用紙)を一部修正し、速やかに各教会伝道所に発送する。
3. 講壇交換の申し込みについて
- ・13 教会(内無牧師 4 教会)より申し込み有り、現役教師 9 名・引退教師 1 名・宣教師 1 名・信徒伝道者 2 名を派遣、宣教師と信徒伝道者の交通費は部会負担とする。
  - ・組み合わせについては、担当委員川人師より過去四年以内(昨年度は中止)で同じ人が派遣されないよう配慮された提案(別紙)の通り承認した。
  - ・開催日に部会内の行政地域に緊急事態宣言等(まん延防止等も含む)が出された場合は中止とする。また開催された場合でも飲食を伴う礼拝後の交わりは遠慮していただく旨、第二報に盛り込む。
4. 無牧師教会・伝道所のための研修会について
- ・担当委員熊谷師より各教会伝道所に発送された案内の通り 2 月 27 日(日)15 時から開催、教師人事に関係する総主事・神学校校長にも陪席(藤岡師が連絡依頼)を求める。
  - ・無牧師教会伝道所の役員等信徒に限らず、部会内教会伝道所に広く参加を呼びかける。

### Ⅲ. 閉会／次回委員会開催の件

日時：2022年3月13日(日) 15時30分～／場所：大阪神愛教会  
 ／祈禱：高月師



万博記念公園の梅林

## 《編集後記》

部会報担当 西川 富三（山下バプテスト教会）

- この後期号を発行する直前の2月28日、国内の新型コロナウイルス感染者数は全都道府県と空港検疫で新たに51,346人が確認され、累計で500万人を超えました。この日確認された死者は198人で、重症者は1,461人となりました。大阪府は1月27日から適用されていた新型コロナウイルス対策の「まん延防止等重点措置」の期限（3月6日）を再延長するよう政府に要請しました。病床の逼迫は改善しておらず、解除は難しいと判断されたからだそうです。
- 新年信徒大会の開催については、部会委員会で関西部会のある地域のどこかで緊急事態宣言等が発出されている場合にはZoomでの新年礼拝だけに切り替えるという申し合わせをしていました。新年信徒大会を開催すべきかどうかについて部会委員会（Zoom）で協議した11月中頃は、新型コロナウイルス感染の第5波も沈静化しており、その後一時2年近く続いたコロナ騒ぎもひよっとすると収束するのではないかと期待させるほどに新規感染者数が急減しました。しかし、オミクロン株が出現した12月以降、年末から年初にかけて感染者数が再び増加傾向をたどりました。それでも緊急事態宣言等が発出される状況にはまだ至っていなかったため、規模を縮小しながらも2年ぶりに新年信徒大会を開催することができて幸いでした。
- 各教会・伝道所に「新型コロナウイルス感染予防対策と教会の近況について（その4）」の報告をお願いした1月中旬は、オミクロン株の感染拡大が続いており、今後の見通しを立てるのが難しい時期だったこともあってか、最初は原稿の集まりが芳しくなかったのですが、最終的に関西部会加盟の全21教会・伝道所から報告が寄せられるとは思ってもよらないことでした。各教会・伝道所及び編集委員を兼任されている田村師のご協力に感謝致します。このコーナーを各教会間の情報交換の場として活用して頂ければ幸いです。
- 教会員の方の証しを募集致しましたところ、あいにく応募がありませんでしたので、今回は、信徒伝道者から他教会で説教された礼拝メッセージを特別寄稿して頂きました。
- この「関西部会だより」も従来の紙による発行部数は数十部と限られていますが、電子版も用意しておりますので、電子版を希望される方は各教会の牧師（又は責任者）経由編者に申し出て下さい。

編集委員：西川 富三、田村 義明

発行：日本バプテスト同盟 関西部会委員会

印刷製本：日本バプテスト同盟 日本バプテスト大阪神愛教会

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 1-1-54